

FirstClass11.1 製品情報

FirstClass 11.1 の新機能と修正点について説明します。本説明は FirstClass 11.0 Server SP3 Build 1019 および Internet Services 11.0 Build 11.049 以降に追加された内容になります。

新しい製品バージョンは以下の通りです。

- FirstClass 11.1 Server Build 1126 for Windows / Mac OS X / Linux
- FirstClass 11.1 Internet Services Build 11.126 for Windows / Mac OS X / Linux

- FirstClass Client 11.059 for Windows / Mac OS X (Intel based)
- FirstClass Client Downloads 11.059 Build 3 for Windows / Mac OS X / Linux

- FirstClass Synchronization Services 11 Build 17 for Windows
- FirstClass Directory Services 11.029 Build 1 for Windows / Mac OS X / Linux
- FirstClass Log Analyzer 11 Build 8 for Windows

ソフトウェアの提供について

FirstClass 11.1 のコンポーネントは、有効なメンテナンス&サポート契約を結ぶ既存のお客様にご利用いただけます。FirstClass Update Services が自動的に、運用中のサーバにこれらのソフトウェアアップデートをダウンロードします。FirstClass Update Services が無効の場合は、手でアップデートを要求できます。

日本語版ソフトウェア及び日本語のドキュメントは年間更新契約を継続いただいているお客様へディスクに収録してお送りしています。また、弊社ユーザサポートサイトから本ソフトウェアと今後のサービスパックなどをダウンロードできます。

ユーザサポートサイトへアクセスするには、ライセンス証に記載した ID と PW が必要です。

FirstClass 11.1 新製品の機能および強化点

サーバの新機能

- IP v6 に対応しました。
- Index Assisted Search という検索モードが追加されました。
- この検索モードは大きなネットワークストアを有するサイトがインデックス検索を活用したり、FirstClass コミュニティーズのソーシャル機能を十分に利用したりすることを目的としたオプションです。通常のインデックス検索が順調に稼動している比較的小さなサイトは、Index Assisted Searchモードに切り替える必要はありません。この新しい検索モードはデフォルトでは無効になっており、以下の機能概要に記したスクリプトで有効・無効を設定することができます。

| 通常の文字検索システム (V10以前) | フルインデックス検索 (V10以降) | Index Assisted Search (11.1のオプション) |
|------------------------|----------------------------|---------------------------------------|
| インデックスを行わない。 | FirstClassサーバのデフォルトの検索モード。 | FCNSのコンテンツがフルインデックス検索と同様にインデックス化される。 |

| | | |
|---|--|--|
| <p>ツリー構造のデータを順番に検索するため、最も時間がかかる。</p> <p>FirstClassコミュニティーズに対応していない。</p> <p>サーバのバージョンが10.0、または11.0で、VLSライセンスがインストールされた大きなサイトでは、この検索モードがデフォルトとなる。</p> | <p>FCNSのコンテンツがインデックスされる。最初のインデックスは、システム全体の監査の実行により作成される。</p> <p>インデックスはディスクに保存される。</p> <p>サーバの起動時、ディスクからインデックスを読み込む間に、検索効率を上げるための追加テーブルがメモリ上に構成される。</p> <p>フルインデックス検索は、リソース要求が増加するので巨大なFCNSを持つサイトには適していない。そのため、VLSライセンスがインストールされたサイトでは自動的に無効になる。</p> | <p>最初のインデックスは、システム全体の監査の実行により作成される。</p> <p>インデックスはディスクに保存される。フルインデックス検索により作成されたインデックスは、Index Assisted searchと互換性を持つ。</p> <p>サーバの起動時にインデックスがメモリに読み込まれるが、フルインデックス検索で使用される追加テーブルは作成されない。これによりメモリ使用量を約20%減らすことができ、メモリがインデックスを読み込む時間が大幅に削減される。</p> <p>ツリー構造のデータを順番に検索する方法とインデックス検索を組み合わせることで結果を表示する。一般的にフルインデックス検索より結果を表示するのが少し遅くなるが、フルインデックス検索もIndex Assistedモードも同様の検索能力とステミング機能を用いるため、同じ検索結果が表示される。</p> <p>11.1サーバの時点では、FirstClassクライアントの接続では以前の文字検索モードを保持しつつ、FirstClassコミュニティーズのインターフェースでのログインでは新しいIndex Assisted Searchをすることが可能。これはVLSサイトが、FirstClassコミュニティーズの導入時に、現在のFirstClassクライアントのユーザの影響を受けないようにすることが目的となっている。</p> |
| <p>ServerToolsフィールドの値:</p> <p>1026 = 0 (インデックス化 on/off)</p> <p>1030 = 0 (ハイブリッドモード on/off)</p> | <p>ServerToolsフィールドの値:</p> <p>1026 = 1</p> <p>1030 = 0</p> | <p>ServerToolsフィールドの値:</p> <p>1026 = 1</p> <p>1030 = 1</p> |

| | | |
|--|---|---|
| <p>サーバに検索モードを指定するBatch adminコマンド:</p> <pre>reply //インデックス化を無効にし、通常の文字検索(現状のVLSライセンスのサーバのデフォルト設定)を使用します。 put path "Core Services:Server Tools" 1026 14 0 // この値はサーバ起動時にのみチェックされるため、サーバの再起動が必要です。 put path "Core Services:Server Tools" 1030 6 0 // この値はサーバ起動時にのみチェックされるため、サーバの再起動が必要です。</pre> | <p>サーバに検索モードを指定するBatch adminコマンド:</p> <pre>reply //フルインデックス検索を有効(現状のVLSライセンスを持たないサーバのデフォルト設定)にします。 put path "Core Services:Server Tools" 1026 14 1 // この値はサーバ起動時にのみチェックされるため、サーバの再起動が必要です。 put path "Core Services:Server Tools" 1030 6 0</pre> | <p>サーバに検索モードを指定するBatch adminコマンド:</p> <pre>reply //Index Assisted Searchを利用したフルインデックス化を有効にします。 put path "Core Services:Server Tools" 1026 14 1 // この値はサーバ起動時にのみチェックされるため、サーバの再起動が必要です。 put path "Core Services:Server Tools" 1030 6 1 //FirstClassクライアントで接続するユーザに通常の文字検索モードを維持したい場合は、下記の1行をアンコメントしてください。 //put path "Core Services:Server Tools" 1031 6 1</pre> |
|--|---|---|

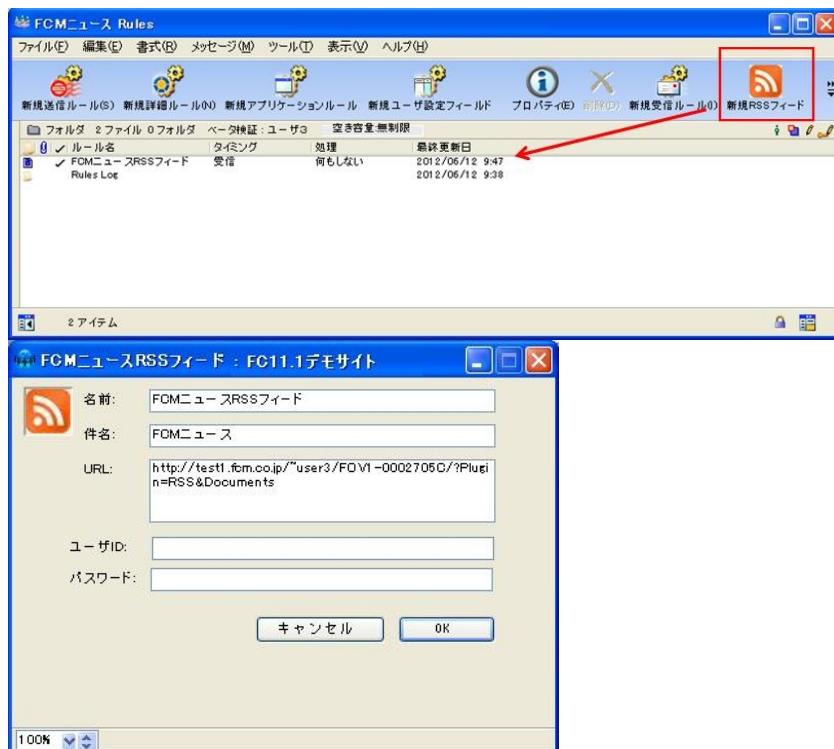
カレンダー

- あるユーザが自分のカレンダーまたはコンタクトコンテナの参加者に他のユーザを登録すると、そのカレンダーまたはコンタクトのエイリアスが、登録されたユーザのカレンダーまたはコンタクトの中に作成されます。また、登録されたユーザには、参加者として登録されたことがメールで通知されません。
- メッセージを右クリックして[カレンダーの予定に添付]を選択することで、新規予定を作成できる機能がクライアントに追加されました。
- Internet Services のカレンダーがアップデートされ、機能が強化されました。この機能強化で、外部の招待に、追加のデータを受け渡し、イベントデータをコピーできるようになりました。
- カレンダーのフォームがアップデートされ、ローカルユーザ以外のユーザにも、了解/辞退の状態が表示されるようになりました。
- IS が、元の予定に代わって更新される予定に対し、元の SysID と元の受信者の情報を提供し、種類を返信するようになりました。これは、SMTP を経由して予定に返信する場合に、了解/仮に了解/辞退のステータスが FirstClass ではないサーバで更新されるようにするためです。

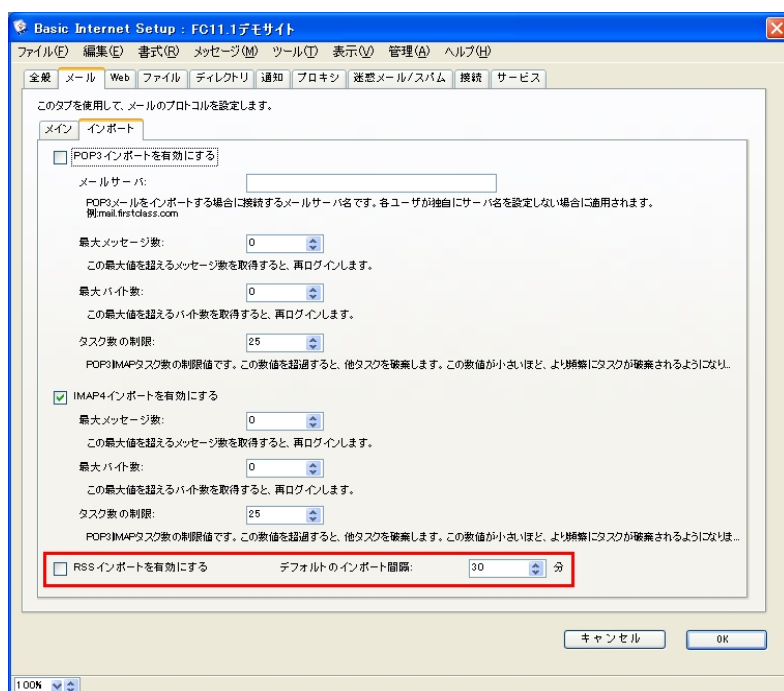
FIRSTCLASS®

RSS フィード

- 会議室で RSS フィードを受信できるようになりました。
(FirstClass 11.1 Internet Services が動作している必要があります)
- 会議室やコミュニティーに、インターネット上の RSS フィードの URL を含むコンテナルールが追加されました。このフォームがコンテナルールフォルダに配置され、新しいアイテムを確認するために一定の間隔で Internet Services に送信されます。新しいアイテムは、記事へのリンクが記載されたメッセージとしてコンテナに送信されます。下図の[ユーザ ID:]と[パスワード:]フィールドは現在使用されていませんが、今後のリリースで対応予定の、認証を必要とする「プライベート」フィードで利用予定です。

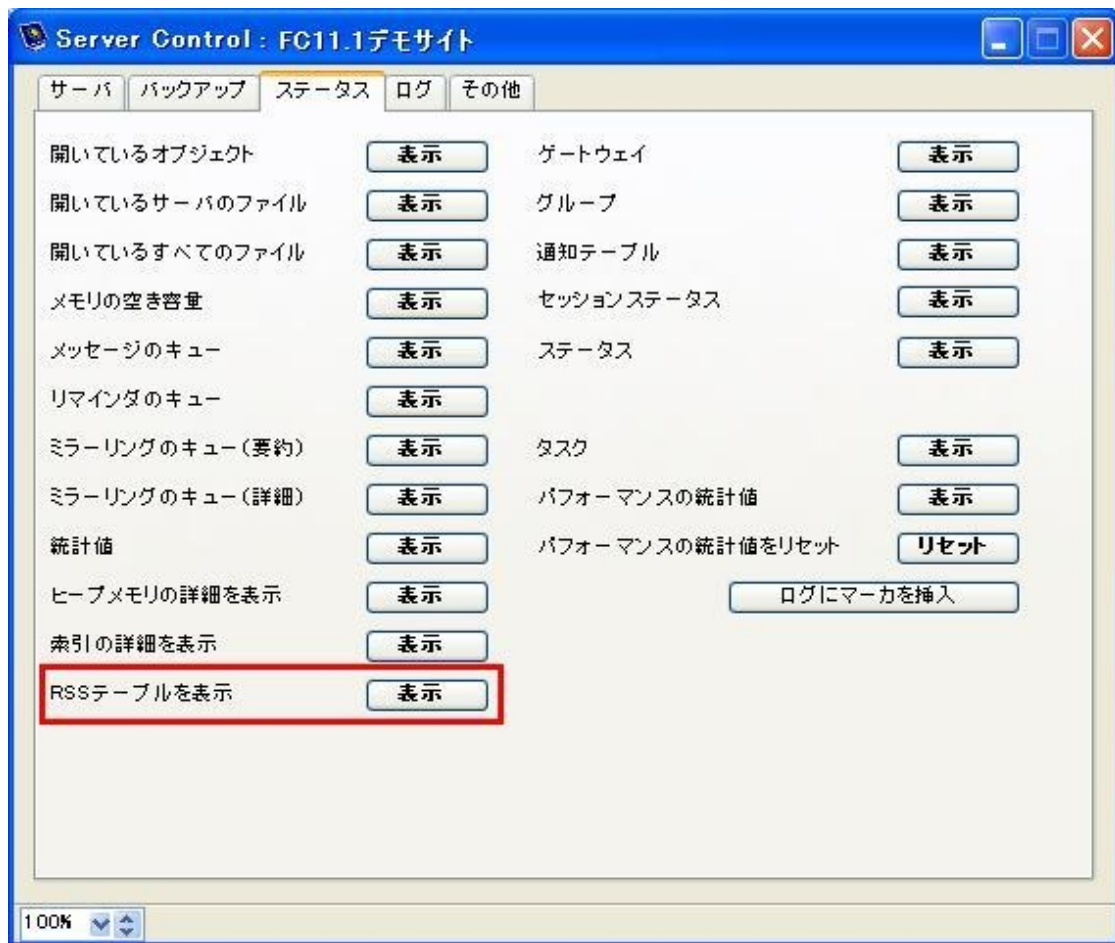


- RSS インポートの間隔を設定するためのオプションが追加されました。



FIRSTCLASS®

- [RSSテーブルを表示]コマンドがServer Controlフォームに追加されました。出力には、ルールが保存されたコンテナのCID、フィードのURL、「公開」フィードか「プライベート」フィードかが表示されます。このバージョンでは、「公開」フィード(認証不要のフィード)のみサポートしています。



```
Dump of 5 RSS Feeds:
OWNER: [10655] Staff Lounge
PUBLIC: http://www.nasa.gov/rss/breaking_news.rss

OWNER: [12458] Daily News
PUBLIC: http://www.tsn.ca/datafiles/rss/Stories.xml

OWNER: [10655] Staff Lounge
PUBLIC: http://rss.cbc.ca/lineup/technology.xml

OWNER: [21987] Teachers Lounge
PUBLIC: http://www.gizmag.com/xml/

OWNER: [10655] Staff Lounge
PUBLIC: http://www.gizmag.com/xml/
```

「公開」フィード又は「プライベート」フィードかを表示

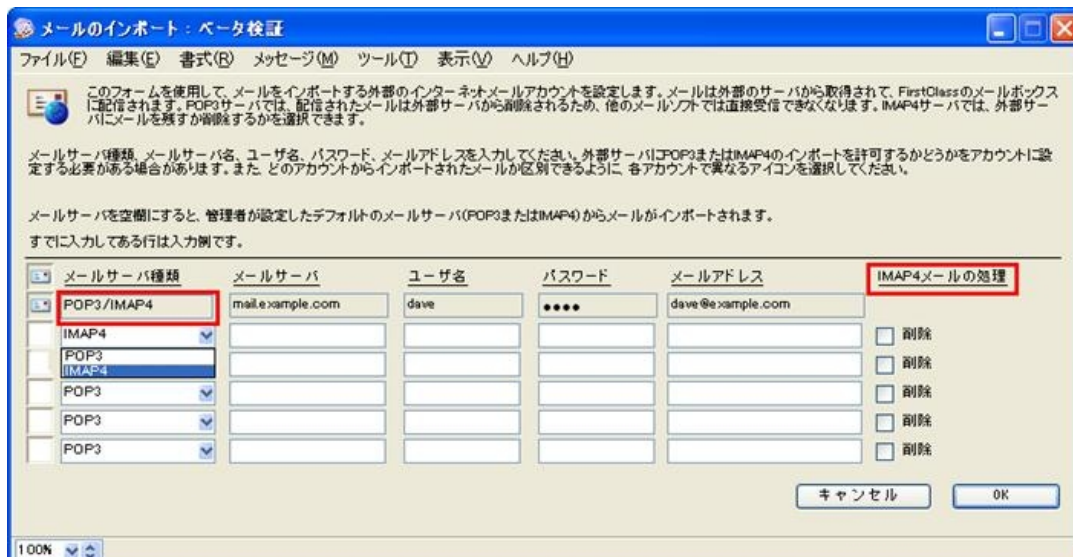
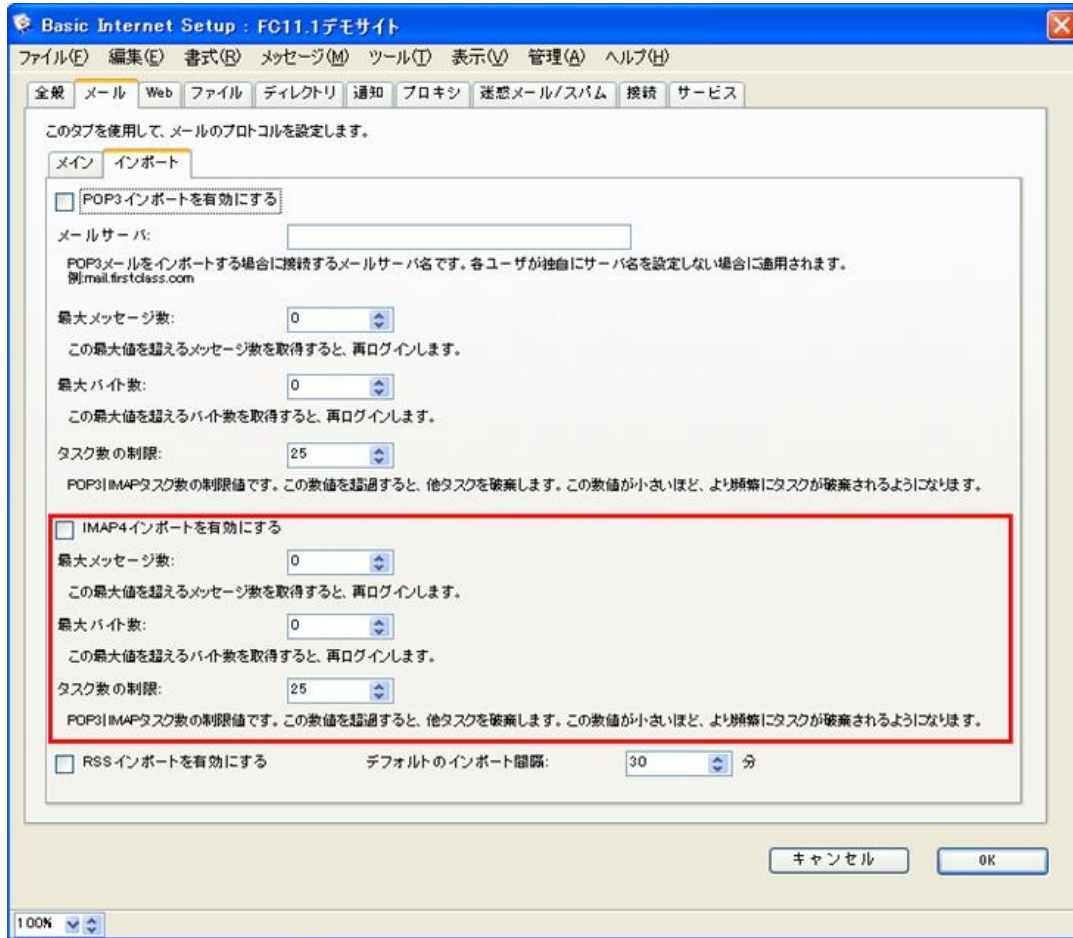
フィードのURL

CID

コンテナ名

IMAP4

- IMAP4 を利用したメールのインポート機能を追加しました。



FIRSTCLASS®

サーバの修正と変更

- それぞれのキューにあるメッセージ数の計算が修正されました。
- Internet Servicesのトラッキングにより、複数メッセージのリキュー要求を避け、不要な通知が行われなくなりました。
- 1044で送信DNSスレッドのルックアップが失敗することが修正されました。
- ログファイル内のログアナライザーライセンスのレポートが修正されました。
- 遅延したメッセージの大きなシーケンスの実行中でも、その他のメッセージの配信処理が許可されるようになりました。
- 多バイトのコンテンツが原因で発生する件名の破損が修正されました。
- モバイルクライアントにより間違ったオブジェクトが削除される問題に、サーバが対処できるようになりました。
- パスワードがセキュリティー要件を満たしていない場合の名前のバリデーション中にクラッシュする問題が修正されました。
- 多バイトのポケットベルで本文が破損する問題が修正されました。
- コンテナから送信するメッセージが送信処理完了前に開かれると、差出人名が変更される問題が修正されました。
- 未読トラッキングの信頼性を向上させるために、メッセージのリキューが変更されました。
- 問題を検出するための未読トラッキングコードが改良されました。
- URトラッキングデバッグが削除されました。
- サーバの優先度[中]で稼動しているサーバのゲートウェイのパフォーマンスが向上(アーカイブゲートウェイ経由でのメール送信遅延を修正)しました。
- VLSサイトのパフォーマンスが向上しました。依然としてCPU使用率0%になることはありますが、いくつかのVLSサイトで見られた遅い動きは改善されました。
- 強制終了に関連するメール送信の問題が修正されました。
- Internet Serviceが、ログイン時にパスワードが入力されないことを示すために使用するメソッドが追加されました。
- モバイルクライアントのログインセキュリティーが改良されました。
- MTAのバックログキューのデバッグレポートが改善されました。
- クラッシュレポート作成用のシンボルを読み込むための.pdbファイルを、サーバが見つけれない問題が修正されました。
- アーカイブサーバ: サーバがシャットダウンする際に、Batch Adminの検索が途中停止されるようになりました。
- メールボックスにリダイレクトされるカレンダーの招待に対して、メールボックスのルールが適切に実行されるようになりました。

インターネットサービスの新機能と修正点

- IPv6のサポート。これまでにIPv4が指定されていた場所に、IPv6のアドレスが使用可能になりました。
- RSSフィードのインポート。この新機能により、コミュニティー、会議室、メールボックス、RSSフィードの統合が可能になりました。コンテナルールの一覧に、複数のフィードをコンテナにインストールさせる、[New RSS Feed]ボタンがありません。フィードの各アイテムは、別々のメッセージとしてコンテナに配信されます。それぞれのメッセージにテンプレートを提供する、「RSS Feed Template」というデフォルトのメッセージテンプレート(フィードを添付したbatch admin用のスクリプト)も用意されました。これによりISスクリプトがサポートされ、それぞれのフィードアイテムの一部を表現する多数のISスクリプトの変数の使用

FIRSTCLASS®

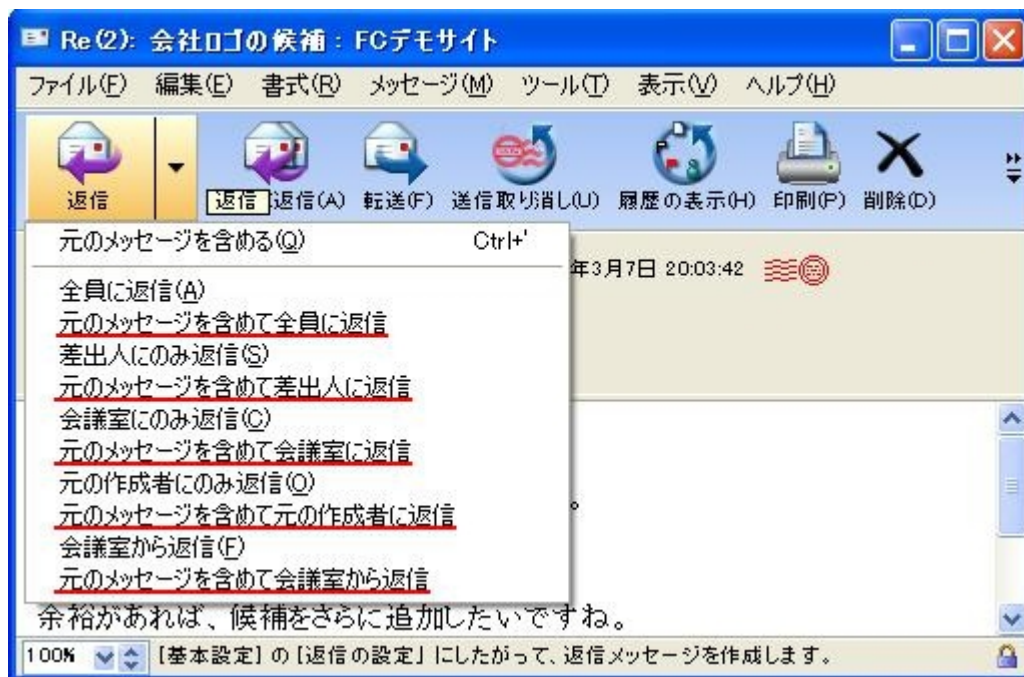
が可能になりました。

- RSSフィードアイテムの処理中は、スレッドIDはメッセージIDと別々に算出されるので、更新アイテムのスレッド処理が改善されました。
- RSSインポータがクラッシュした場合は、クラッシュレポート内にRSSフィードのコピーを保存します。
- これまでは、文字セットの互換性が無いためにAltBody部分として送信されなかった受信HTMLの本文が、UTF-8に変換されて送信されるようになりました。
- 許容するHTMLパーサーエラーが[すべて]に設定されている場合、すべてのHTMLメッセージはAltBodyストリーム内のサーバに送信され、内蔵のWebブラウザを使用する新しいクライアントにより表示されます。
- メッセージが転送されたときや、POP3やIMAP4のクライアントで取り込まれたときに、Attach0.htmlが送信されないようになりました。
- 他のシステムからの、あるいは他のシステムへのiCalendarの返信処理がサポートされました。
- IMAP4サーバのメールインポートがサポートされました。これによりPOP3サーバとIMAP4サーバの選択が可能になり、IMAP4サーバで、未読メッセージのみを残しておいたり、すべてのメッセージを削除したりするオプションも可能になりました。
- POP3とIMAP4のメールインポートでは、ログインベースでメッセージや容量制限を指定するオプションもあり、大きなPOP3/IMAP4アカウントの処理に役立ちます。
- IMAP4: 拡張文字を使用してエンコードされたフォルダ名をデコード処理している間にエラーとなる問題を修正しました。
- IMAP4: 空白、または不正な本文部分の復元について修正しました。
- 再送信eメールのヘッダを受信した時の特別処理を取り除きました。
- HTTPサーバ内でのeNeedTypedPWエラーの扱いに対応しました (BlackBerry、Androidで対応)。
- (Microsoft Word 2012が生成したHTMLに見られる) エンコードされたダブルクォーテーションを含む文字列にインラインの書式を適応する時の問題を修正しました。
- レベル0のエラーメッセージとIsValidConnectionからのトレースバックを取り除きました。
- 受信カレンダー予定のタイムゾーンと参加者の処理が改善されました。
- SSIコマンド<!-#echo var="\$SSL_CIPHER_LIST"-->の応答内の暗号リストを返す前に、SSL cipher suiteを設定するようになりました。
- SSL cipher suiteを設定できない場合は、エラー原因の詳細を表示します。
- Internet Explorer 10 (Windows 8.)で動作するdisablenonsecuresharedcontent HeaderMatchオプションを作成するように修正しました。
- さらなるデバッグ情報を創出する、POP3サーバ用のクラッシュ診断処理を追加しました。
- 一つの最適化として、MAIL FROMコマンドとRCPT TOコマンドの後のREFUSE/NDNメールルール動作から、明確な結果を検出します。

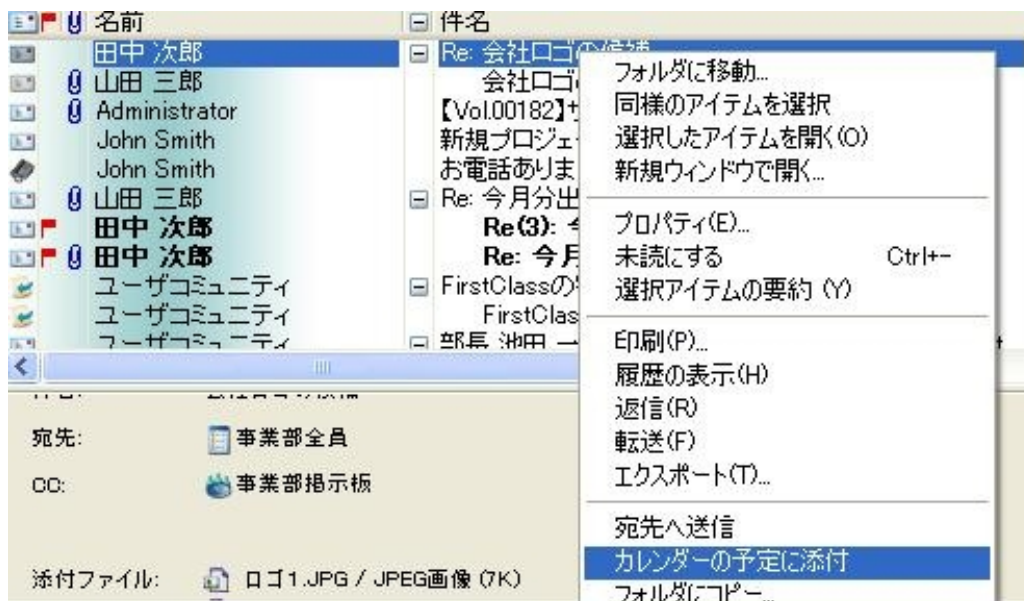
FIRSTCLASS®

クライアントソフトウェアの新機能

- すべての返信に対して、元のメッセージを含めるメニューが追加されました。

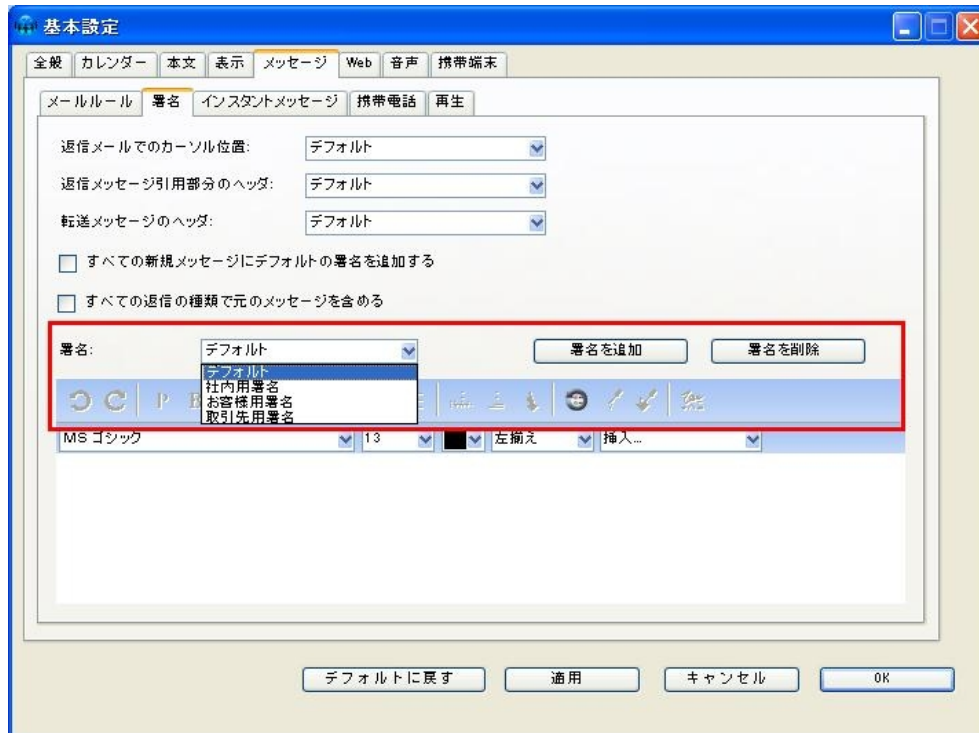


- メッセージを右クリックして[カレンダーの予定に添付]を選択すると、そのメッセージが添付された新規予定を作成できる機能が追加されました。

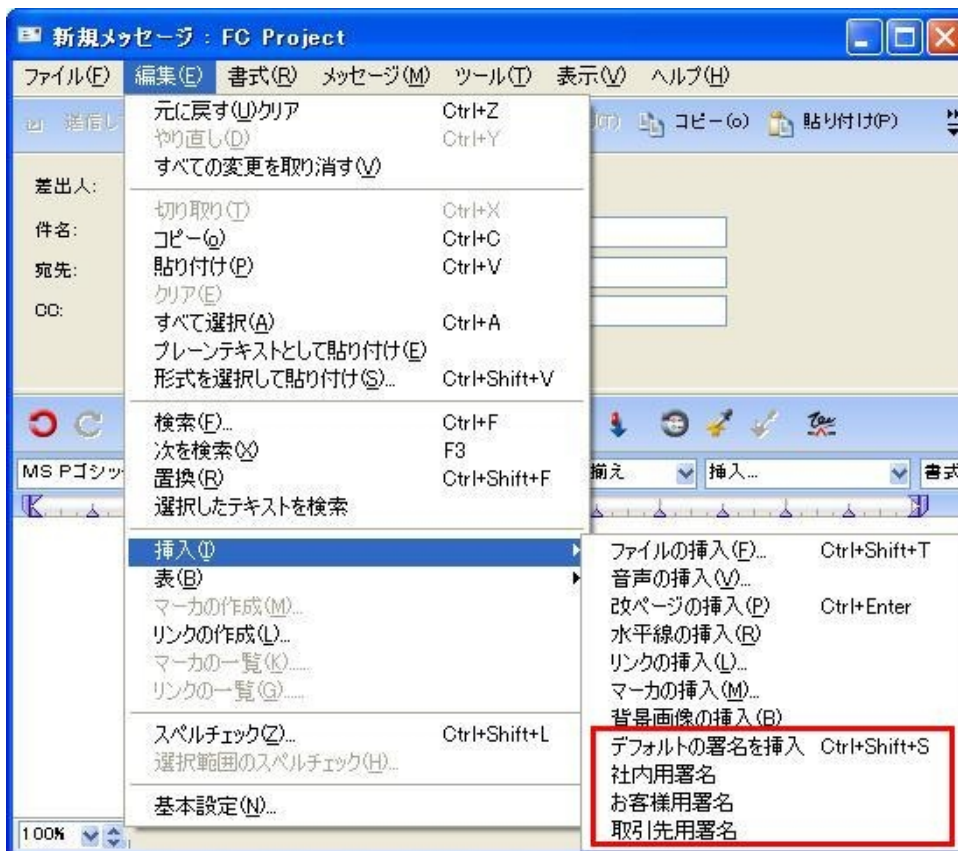


FIRSTCLASS®

- 複数の署名を登録できるようになりました。
登録画面: 基本設定 > メッセージ > 署名



- 署名の追加イメージ: メッセージのメニュー > 編集 > 挿入 > (各署名のタイトル)



FIRSTCLASS®

- 一般的な編集ショートカットキーが追加されました。
その結果、いくつかのショートカットが変更されました。

| ショートカット | 旧ショートカット | | 新ショートカット | |
|--------------|--------------|-------------|--------------|-------------|
| | Windows | MAC | Windows | MAC |
| 情報を見る (Mac) | | Cmd+I | | Shift+Cmd+I |
| 次の未読アイテム | Ctrl+U | Cmd+U | Ctrl+U | Cmd+U |
| 最新の未読アイテム | | | Shift+Ctrl+U | Shift+Cmd+U |
| BCC欄を隠す/表示する | Ctrl+B | Cmd+B | Ctrl+Shift+B | Shift+Cmd+B |
| 斜体(編集) | Ctrl+Shift+I | Shift+Cmd+I | Ctrl+I | Cmd+I |
| 太字(編集) | Ctrl+Shift+B | Shift+Cmd+B | Ctrl+B | Cmd+B |
| 下線(編集) | Ctrl+Shift+U | Shift+Cmd+U | Ctrl+U | Cmd+U |

- Windows 用クライアントインストーラが、EXE 形式から MSI 形式へ変更されました。
- 辞書ファイルとスペルチェックエンジンがアップデートされました。
- タイムゾーンのリソースが最新版にアップデートされました。
- [Windows] クライアントインストーラがWindows Installerベース(.MSI)になりました。

クライアントソフトウェアの修正

- 宛先領域にアドレスを貼り付けるとき、後に続くスペースを削除するように修正されました。
- カレンダーとコンタクトのインポート/エクスポートについて修正が行われました。
- スペルチェックフォームの、言語選択ドロップダウンリストが表示されるように修正されました。
- ユーザが実行フォルダで書き込み権限を持たないときに、dmpファイルやtrcファイルが作成されないことについて修正が行われました。
- 現在のrezファイルに適合してPNGアイコンが適切にキャッシュされるように修正されました。
- ドキュメントを開いている際に強制終了する問題が修正されました。
- 不正なデータによりクライアントがフリーズする問題が修正されました。
- [Windows] Windows Vista、Windows 7で、デフォルトクライアントが正しく登録されない問題が修正されました。

FirstClass 同期サービスの新機能

- ActiveSync version 14.0で予定や作業の本文が同期されない問題が修正されました。
接続分岐処理に古い接続として現れてしまう、早期に終了してしまうような新しい接続のためのメモリ再利用を、削除するように修正しました。
- カレンダーの年を移動する際に、3ヶ月と6ヶ月のフィルタが壊れてしまう問題を修正しました。
- FCSSが間違ったデータを送信してしまう原因となる同期キーの初期化をクライアントがリクエストする問題が修正されました。FCSSは、データを送信するために、初期の同期キーの値のみ送信してクライアントからの次の同期コマンドを待つようになりました。これによりAstraSyncが 初期同期を行うことを防ぐことができます。

FIRSTCLASS®

FCSSにより生成されたチャレンジを検証するために、FCS上でSyncML MD5認証のためvoucher IDのチェックを行うようにしました。

- 新しい設定アイテム「ACTIVESYNC_ENFORCE_DEVICE_PIN」(詳細はFirstClass Synchronization Services Administration Guideを参照してください。)
- 下層ライブラリのバグが修正されました。
FCPライブラリで区別しているように、保護フラグの代わりに読み取り専用フラグを使用するようになりました。
これにより、保護された読み取り専用のカレンダーの書き込みの問題が修正されました。
- Eメールのプッシュ通知が無効になりました。
- 拡張文字のユーザIDとパスワードが正確に翻訳されない問題が修正されました。
- 特定のバージョンのSSL/TLSを無効にする設定ができるようになりました。新しい設定パラメータ「DISABLE_SSL_VERSION」(詳細はFirstClass Synchronization Services Administration Guideを参照してください。)
- ActiveSync.で、日をまたぐDSTの切り替えの時に、「全日」に適切にフラグが付けられるようになりました。
- カレンダー予定の[場所]が、30文字で削られないようになりました。
- 正確なタイムゾーン設定に、新しいリソースファイル(SA.REZ)が含まれました。
- FCSがダウンしているときは、HTTPステータスコードの503 Service Unavailableを返すようになりました。

FirstClass ディレクトリサービスの新機能

- IPv6サポート
- TCPLayerの前でリンクオブジェクトを開放するLDAPリンク切断でのクラッシュを修正しました。
- FCSに再接続した後の無効なエントリーのページを続けます。
- 参加者一覧の作成を修正しました。
- FirstClassコミュニティズのユーザのEメールが、作成時に基本設定に追加されない件を修正しました。
- ツリーが作成されるまで、LDAPサーバリスナーをスタートさせません。
- モニタデータが3秒ごと、1秒に10パケット送信されるようになりました。
- MS ADログイン認証の結果・理由コードを解析し、理由コードがADの無効を示す場合には“fallback to FCS authentication”をFCSに返すようになります。
- コンタクトがサイト名とIDで作成されない件が修正されました。
- 接続失敗時に認証セッションが開始されることを避けるために、接続のバリディティチェックを強化します。
- 参加者リストが空ではないときにのみ操作するようになります。
- エントリーをリストから削除するときに、コンタクト(リモート名)のエイリアスフィールドを削除します。
- FCSでの一時的な書き込み禁止エントリーを避けるために、すべてのオブジェクトで即時クローズを強制的に実施します。
- 返信するすべての属性に対し、LDAPの検索要求としてアスタリスクを追加しました。
- 通知が無限にループすることを避けるため、タイムスタンプ機能を有効にする前に、FCS 11 B962以降のバージョンチェックが追加されました。
- LDAPサーバからのリクエストでOUが削除されないようになりました。OUが、FCSで削除され、かつ葉ノードである場合のみ、LDAPツリーから削除されるようになりました。
MS Exchangeの、複数のemailとしてのproxyAddress属性の復旧を追加しました。
Limited LDAP query search to query reply size limit.
LDIFのエクスポート中は、LDAPツリーへのすべてのローカルアップデートを無効にします。

FIRSTCLASS®

すべてのLDIFでエクスポートされたエントリーに、`#changetype: modify` 行を追加しました。このコメント行はアンコメントすることができ、続くLDAPインポートで追加/変更/削除のために使用されます。

- コマンドラインのパラメータに、`REPLYTIMEOUT=X`と`LINKTIMEOUT=X` (Xはタイムアウトまでの分数)が追加されました。特に指定が無い場合、2.5分と3分がデフォルトの値としてそれぞれ指定されます。
- 起動時に、`print DS`のログがコマンドラインに記録されます。
- LDIFインポートは、切断前に処理されたエントリーの合計数をレポートします。
- 引用した名前でのRDNをパースするときの問題を修正しました。
- FCSがクラスタ設定ごとではなくサーバごとにフィルタリングするため、ローカルでの変更の通知に選択したフィルタを適用できます。
- LDIFインポートでフィルタを有効にできます。
- LDIFインポートファイルで`uSNChanged`か`modifyTimeStamp`が利用可能な場合、LDIFインポートは複製に高い電子透かしを設定します。
- LDAPサーバがMS ADで、複製タイプが“External server standard”のとき、`uSNChanged`が使用されるようになります。その他の場合、`modifyTimeSTamp`が使用されます。
- ユーザ作成のステータスのチェックが改善されました。
CheckStatusの呼出し後に、ADのエラーメッセージを追加しました。
Corrected search reply counting index.
- ADのプライマリSMTPアドレスが、UIFの一覧の最初に表示されるようになりました。
- SMTPアドレスの不正な文字として、アポストロフィを削除しました。
- DSの切断をリクエストすると同時に、進行中の`full dir-sync`を“incomplete”の状態にして切断します。これにより、`full dir-sync`のあとにDSが“untouched”のユーザを削除しようとするのを防ぎます。
- LDAPメッセージのバッファサイズを200Kに増加しました。
- クライアントの(接続)タスクを一時停止し、リプリケータに検索結果一覧を排出するタスクを行わせるようにしました。
- ADからのすべてのOUのtombstoneが、それらが葉ノードであることを確認するために、DSツリーに対してチェックされます。
- 有効な`fname` (OTSW OU エイリアス)を持たない時にクラッシュを起こすFirstClassコミュニティーズサーバのOUのための、true DNの再構築について修正しました。
- すべてのオブジェクトを削除する際に、操作のステータスを返すようになりました。これにより、ユーザ作成のエラーと失敗がDSにより扱えるようになりました。
- FCPが“create object”に対して完全に返信を待たないことで、FCS 1019 and 1021においてユーザが作成されないことについて修正しました。
- LDAPリンク変数の“stream”が、リンクデストラクタでクラッシュを起こしながら初期化されない件を修正しました。
- 実際にTCPレイヤーがクラッシュしながらリンク切断を起こす前に、リンクオブジェクトを開放するLDAPリンクの切断を修正しました。

機能拡張

- すべてのエントリーに`modifyTimeStamp`属性を追加しました。FCS 11 B962以降が必要です。

FIRSTCLASS®

ヘルプドキュメントへの影響

- REPLYTIMEOUTは、一般的なDSクライアントのTCP接続が、送出されたLDAPクエリに対して待つ時間を決定します。これは主に、Generic Replicatorクエリの処理中に実施されます。その他のクライアントの接続については自動的に返信タイムアウトが設定(例:認証接続/10秒)されます。
- LINKTIMEOUTは、一般的なDSサーバのTCP接続が、どれくらいの時間リンクの活動がなくても接続を維持するかを決定します。これは主に、DSにLDAPコマンドとクエリを送出する、DS受信接続で実施されます。
- Active DirectoryユーザがMS Exchangeユーザとしても登録されている場合は、AD LDAP属性の proxyAddressesの元に入力された複数のアドレスを持っているかもしれません。この属性は、Directory Servicesと、標準LDAP属性のemailにマッピングされたDirectory Servicesの値によって取り込まれます。
- Replication/AdvancedタブのDNが変更されたときに全ユーザのフィールドを更新するための、新しい設定オプション。
- すべての有効なコンポーネントをONにするコマンドラインオプション:
/TRACE=LINK, TCP, SSL, AUTH, LDAP, REPL

LDAP - LDAP API

REPL - 複製

AUTH - 認証

LINK - 通信リンク

TCP - TCPリンク

SSL - SSLリンク

- FCDSとFirstClassコミュニティーズとの統合。
- ターゲットのFirstClassサーバが“OT Social Workplace server”であると、Directory Services設定フォームで指定されたとき、Directory Servicesの複製中のふるまいが以下のように変わります:
- ユーザが通常の方法で作成されます。さらにFCDSがそれぞれのユーザに対して、ユーザの共有ドキュメントフォルダ内にOTSWプロフィールを作成します。
- OTSWプロフィールは、ユーザ名、電話番号、電子メール、携帯電話番号、勤務先、部署、役職、上司、住所とともに投入されます。
- ユーザの電子メールアドレスはUIFに設定されません。その代わりに、メール転送のために基本設定フォームに設定されます。
- ユーザデータの更新では、emailを除くすべてのUIFの通常のフィールドを更新します。
- ユーザのOTSWプロフィールの更新では、OTSWプロフィールで表示されるすべてのフィールドを更新します。

ログアナライザーの新機能

- FirstClass Server 10以降のログをサポートします。
- 新しいログインタイプ(Mobile Clients等)をレポートします。
- IPv6をサポートします。
- ユーザーインターフェースが更新されました。



2012年11月

原文: OPEN TEXT

翻訳: 株式会社エフ・シー・マネジメント